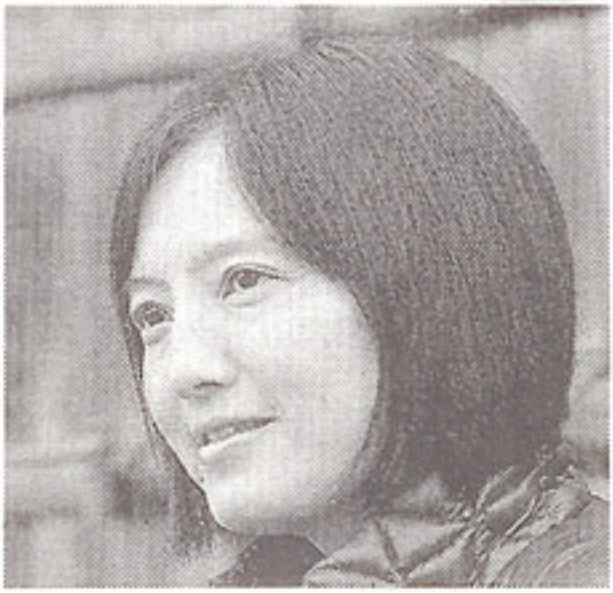
中日新聞 2008年5月22日

ドキュメンタリー映画「空想の森」の監督 田代陽子さん

ゆったりとした時間が流れる夜の食卓。若い夫婦がこんな会話を交わして笑う。「貧乏でも食べ物がいっぱいある豊かさを追求したい」「貯金はないけど、まきがいっぱいあるよとか」。自然な表情にカメラが寄り添う。

映画の舞台は北海道・十勝の新得町。本州から夫婦で入植した畑作農家など農業に携わる人々の仕事や暮らしを通して、本当の豊かさや幸せの意味を問う。住まいがある帯広から通い、完成までに七年間を費やした。

この人



「不安や葛藤、悲しみや喜びなど、あらゆる感情を映画づくりを通じて味わった」。向き合った人々の感情と自身の思いを作品に織り込んだ。

東京の大学を中退し、あこがれていた帯広でタウン誌発行会社に就職。一九九六年、新得で始まった「空想の森映画祭」でドキュメンタリー映画と出会う。「つくり手と見る人たちの熱い心が呼応していた。映画は人と人を結ぶんだと実感した」。その思いを初めての映画づくりにつなげた。

七月の劇場公開（東京）を経て、秋からは全国各地での自主上映会開催を目指す。川崎市出身、四十歳。自主上映に関する問い合わせは、空想の森上映委員会＝電090（9084）2058＝へ。

（佐藤元彦）